

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	88	学校名	茨城県立三和高等学校					課程	全日制		学校長名	馬場 光夫				
教頭名	有瀧 由起子										事務長名	飯塚 夕子				
教職員数	教諭	25	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	45
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計		クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	普通科	39	38	58	61	51	48			148	147	11				

2 目指す学校像

- ① 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、学校行事、体験活動や交流活動等をととして、誠実で豊かな心を育む学校
- ② 個に応じたきめ細かな学習指導により、基礎学力の定着を図り、確かな学力を身に付けさせる学校
- ③ 部活動や特別活動の活性化により、心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む澁刺とした生徒を育成する学校
- ④ 望ましい職業観と勤労観の育成を図りながら、生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、地域社会に有為な人材を育成する学校
- ⑤ 保護者や地域社会と連携・協力をしながら、教育活動の改善と充実を図る開かれた学校

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導 (教育課程)	習熟度別学習や少人数学習等による義務教育段階の学習内容の「学び直し」を行い、基礎学力の向上を図っている。その結果、一部の生徒には自信を持って意欲的に学習に取り組む姿が見受けられるようになった。しかし、一方で家庭学習が不足している生徒や苦手意識を強く抱いている生徒も多く、個に応じたきめ細かな学習指導が求められている。	学校評価では、学習指導について教職員よりも生徒の方が有意に高い得点であり、生徒が努力しながら学習をしていることが明らかになった。今後は、基礎力診断テスト等を活用して成果を検証しながら基礎学力の向上に向けた地道な取組を継続していく必要がある。特に、一人一人の学習意欲を維持させながら、生徒への更なる個別指導を徹底することが課題である。

別紙様式 1 (高)

<p>進路指導 キャリア教育</p>	<p>各学年段階に応じた情報提供・個別指導やインターンシップ等の取組により、望ましい職業観や勤労観の育成を図ることができ、進学希望者と学校推薦の就職希望者全員の進路を決定することができた。就職先とのつながりを保ちつつ、生徒がスムーズに就業できるよう、継続した支援が必要である。</p>	<p>進学希望者及び学校推薦の就職希望者の進路決定率 100%を目指し、キャリアガイダンスの充実を図る。また、各学年段階に合わせて一人一人の進路意欲を引き出す指導を工夫し、地域社会に有為な人財育成に向けた努力を継続していく。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>基本的な生活習慣が身につけていない生徒や、規範意識に欠ける生徒は減ってきており、特別指導の内容も社会の変化を受けて交通関係や喫煙等の案件から SNS に関連した案件への変化が見られる。環境が変わったことで学校生活への取り組み方が好転した生徒も見受けられるが、一部に学校生活に不安を抱えている生徒もおり、一人一人に対するきめ細かな指導の継続が必要である。</p>	<p>更なる規範意識の高揚を図るため、組織的な生徒指導体制を充実させる。生徒が抱えている不安や諸課題への対応として、積極的な声かけを充実し、相談しやすい雰囲気作りを心がける。また、SC や SSW 等の活用により問題解消に努めていく。生徒と教員、生徒同士の良好な人間関係を築くとともに、保護者との協力体制作りを引き続き教科していく。</p>
<p>特別活動</p>	<p>学校行事全般にわたり、コロナ感染症の影響を大きく受けたが、生徒会活動、各種委員会活動、LHR など、実施方法や活動内容を工夫し、全体として活性化している。諸活動をとおして自信やコミュニケーション力を身に付け、進路実現につなげている生徒もおり、本校における意義は大きい。部活動については、一昨年度までの全入制を変更し、昨年度からは自由入部制とした。また、顧問についても今年度より完全複数顧問制を導入した。</p>	<p>部活動については、入学者はもとより、部活動参加生徒が減少する中で、部活動指導方針を踏まえた持続可能な形態についての検討と対応が必要である。同時に、生徒会活動・委員会活動を含めた生徒の主體的な活動を促すため、顧問の指導力の向上と活性化に向けた取組の継続が求められている。また、キャリアパスポートを活用し、生徒が自己の活動を振り返る機会を定期的に設定し、部活動や学校行事、生徒会活動等をとおして生徒のキャリア形成を促していく。</p>
<p>組織運営 (働き方改革)</p>	<p>勤務時間実態調査によると、超過勤務が月 80 時間以上の職員はほとんどいないが、月 45 時間以上の職員が 3 割超であり、職員による業務の偏りが見られる。生徒の個別指導や部活動指導に向ける時間的余裕、精神的な余裕が生み出しにくく、教員の自発的な働きに負うところが大きい。</p>	<p>業務の精選や効率化、組織的な取組等により、職員ごとの業務の偏重を減らし、超過勤務の減少を目指す必要がある。タブレットの導入による業務量の増加が見込まれるため、ICT による教材や情報の共有化やペーパーレス化等をとおして、効果的・効率的な業務の在り方を検討・実施し、勤務時間外の在校時間をできる限り減らしていく。</p>

別紙様式 1 (高)

教育環境整備	校舎・体育館・グラウンド等のハード面では比較的恵まれている。昨年度末に設置された電子黒板も有効活用に向けて準備が進んでいる。一方で、今年度導入されるタブレットに関しては、対応部署や管理方法、ルール設定、組織的な活用に向けた研修等が必要である。	タブレットをはじめとする ICT 整備に関しては、対応できる教員の人的な手当や対応部署の組織化、事務部との連携等、早急な対応が必要である。年度前半で校内ルールも含めた環境整備を行い、有効活用できるよう、取組を進める。
地域との連携 (保護者、地域住民等)	保護者や地域住民は本校の特色や存在意義を理解し、支援してくれている。特にインターンシップや「総合的な探究の時間」においては事業の意図を理解し、実習の受け入れ、講師の派遣等、多方面にわたり協力いただいている。	保護者や地域住民が本校に期待する人財育成のため、引き続き情報交換や連携を密にし、地域に支持され続ける学校を目指す。
保健管理 安全管理	保健厚生部を中心に組織的な保健管理に取り組んでいる。特に昨年度からはコロナ感染症対策のため、備品整備、情報提供等を積極的に行っている。また「学校危機管理マニュアル」に基づき、防災体制の確立・安全管理を行っている。	コロナ感染症対策については、校内の組織的な対応を推進し、地域の感染状況に応じた感染対策に努める。「学校危機管理マニュアル」の定期的な見直しを行い、現状に沿った安全管理体制の構築に努める。
研修 (資質向上の取組)	昨年度は保護者対応や ICT に関する研修を積極的に行い、実践に生かすことができた。また、オンライン学習方法研修会や研修センターの希望研修等に参加した教員が校内で研修内容を共有するなど、組織的な取組を行っている。授業改善に関しては、授業力向上委員会を中心に相互授業参観を計画し、教員間での研修に取り組んでいる。	今年度は、タブレット導入に伴う活用方法に関する研修等を重点的に実施していく必要があり、実施体制の構築と年間を通じた校内研修が必要である。
情報提供 (広報、生徒募集)	例年夏期休業中に実施していた学校説明会では多くの中学生の参加があった。昨年度はコロナ感染症のために実施できず、11月の学校公開時に併せて実施した。	昨年度実施した動画による学校紹介など、学校 HP による広報活動を適宜行うとともに、管理職を中心とした中学校訪問等による生徒募集を積極的に行う。

別紙様式1 (高)

4 中期的目標

- ① 組織的、かつ個に応じた生徒指導を行い、基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、学校行事、体験活動や交流活動等を活用し、誠実で豊かな心を培う「心の教育」をより一層推進する。
- ② 習熟度別学習や少人数学習等のきめ細かな指導と能力に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。
- ③ 部活動や特別活動等の活性化により、健全な精神と丈夫な身体を培い、何事にも一生懸命に取り組む澁刺とした人間を育てる。
- ④ 各学年に応じた進路教育やインターンシップ、資格取得等を生かして、生徒一人一人の進路希望の実現を目指すとともに、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。
- ⑤ 保護者や地域社会との情報交換や交流を密にし、更なる連携と協力をしながら、開かれた学校を目指し、より一層の教育活動の改善と充実を図る。
- ⑥ 学校の現状を踏まえ、働き方改革の推進を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<p>1 基本的な生活習慣の確立と誠実で豊かな心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 服装容儀の指導方法を工夫・改善し、自律的な生活態度の育成を図る。 ② 挨拶や言葉遣い、話を聞く態度の育成等の礼儀指導の充実を図る。 ③ いじめの対処方針や指導計画を定め、いじめの未然防止、早期発見や早期解消に向けた取組を組織的に実践する。併せて関係諸機関とも連携し、いじめや暴力のない「安全・安心な学校づくり」を推進する。 ④ 生徒や保護者とのコミュニケーションを密にして、悩みや相談に応じるとともに、相談しやすい雰囲気作りに努め、SCやSSWの活用と併せて進路変更者をゼロに近づける。 ⑤ 境特別支援学校等との交流活動や様々な体験活動、学校行事等を活用して豊かな心を培う。 ⑥ 学校の教育活動全体をとおして、人間としての在り方・生き方に関する教育を行い、道徳心や規範意識、社会性等を育成する。
<p>2 わかる授業の実践による基礎学力の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ わかる授業の実践をとおして一つ一つわかる喜びを積み重ね、不得意科目の克服と併せて、生徒に学習への自信を付けさせる。 ⑧ 習熟度別学習、課外指導及び個別指導等の指導形態の工夫・改善により、きめ細かな指導を実践する。

別紙様式 1 (高)

	<p>⑨ 授業力向上委員会を中核とした全職員による協力体制を構築し、授業公開及び研究協議等の充実により生徒の進路実現に必要な学力を身に付けさせるための組織的な取組を推進する。</p> <p>⑩ コンピューターやタブレットを活用した学びの進め方を研究する。</p>
<p>3 部活動や特別活動の活性化によるたくましい心の育成</p>	<p>⑪ 部活動における指導方法を工夫・改善するとともに、練習試合等をとおして実戦力を向上させ、部活動の活性化を図る。</p> <p>⑫ 球技会等の学校行事をとおして協力する心や団結力を育む。</p> <p>⑬ LHRにおける指導方法を検討し、より有効なLHR活動を推進する。</p> <p>⑭ 挨拶運動やボランティア活動等をとおして、生徒会活動を活性化させる。</p> <p>⑮ キャリアパスポート等の活用によりキャリア教育を推進し、社会に貢献できる人財の育成を図る。</p>
<p>4 生徒の進路希望の実現</p>	<p>⑯ 生徒一人一人の資質・能力や適性に基づいた計画的な進路指導を実践する。</p> <p>⑰ 外部講師による講演会等の実施方法を工夫し、企業見学やインターンシップの代替企画等をとおして、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。</p> <p>⑱ 礼儀指導や面接指導を組織的に行う。更に資格取得を奨励し、希望者の進路決定率 100%を目指す。</p>
<p>5 「地域とともにある学校づくり」の推進</p>	<p>⑲ 学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域社会からの要望や提言を集約し、学校教育の改善と充実に生かす。</p> <p>⑳ 中学校との定期的な情報交換をとおして、中高の連携を密にし、中学校や地域社会に信頼され、安心して通うことができる学校を目指す。</p> <p>㉑ 地域社会の行事には積極的に参加し、地域社会と連携や協力する心を培い、交流を深める。</p> <p>㉒ コロナ下での方法を工夫しながら、中学校や地域社会への広報に努める。</p>
<p>6 将来の学校の在り方に関する議論の活性化</p>	<p>㉓ 新学習指導要領実施に向けた研究に努め、生徒に身につけさせたい資質・能力を全職員で共有し、生徒の実態に即した魅力ある教育課程を編成する。</p> <p>㉔ グランドデザインを基に、「将来構想」に関する議論を活性化し、社会の変化を見据えながら中・長期的な学校のビジョンを確立する。</p>
<p>7 持続可能な学校教育のための働き方改革の推進</p>	<p>㉕ 各学校行事について、目的と効果を検証しながらより有効な実施方法を検討し、精選を図る。</p> <p>㉖ 教材の共有化、ICTを活用した情報の共有化やペーパーレス化などを推進し、業務の効率化を図る。</p> <p>㉗ 部活動運営方針を軸に適正な部活動の数や指導の在り方を検討し、見直しを図る。</p>